（別紙様式2）

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立けやき台小学校

1 学校教育目標

夢に向かって　堂々と歩む子の育成
～あきらめず挑戦し　自尊感情を高めるけやきっ子～
元気で明るい子・やさしく素直な子・興味を持ち、伝え合って学ぶ子
けやきのＡ(エース)をめざせ

2 今年度の学校重点目標

○わかる授業づくり
・めあてとふりかえりを大切にし、子どもの相互表現で創る授業
・ＩＣＴ機器を活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善
○楽しい学校づくり
学級経営および特別活動（児童会活動・学級活動）の充実
自尊感情の高揚と人権感覚　学校集団の育成
○個に寄り添った支援体制づくり
多様な教育的ニーズに応じた教育の充実（ユニバーサルデザイン化）
積極的ないじめの認知と組織的な対応の充実
個に応じた居場所づくりの推進
○業務改善、校務及び行事のスリム化による勤務時間の適正化

3 総合的な自己評価

○職員、保護者、児童の三者それぞれのアンケートについて、ほぼ全ての項目で肯定的評価(あてはまる・少しあてはまる)の値が目標値の80％を大きく超え大変良好であった。
○「読書」について、三者とも肯定的評価が高くなり、特に保護者の評価が大きく向上した。図書ボランティアの支援や読書ウィークの取組が効果を発揮している。
○「個に応じて指導する」「あきらめず努力する」についての保護者の肯定的評価の内、“あてはまる”との評価が大きく向上した。個性や能力に応じた個別最適な指導を今後も継続していきたい。
○「算数」について、保護者の肯定的評価が98％と向上した。算数に関する環境整備を意図的に進めることで、保護者への啓発につながった。一方で、授業や家庭学習への意欲については、児童・保護者とも若干評価が下がる結果となった。今後も、児童のがんばりや成長を価値づけ、丁寧に保護者と共有を図る取組を進めたい。
○「ボランティア等地域の方々の協力」について、職員・保護者とも100％近い肯定的評価を得た。日々の教育活動の中で、連携した取組を推進することができた。一方で、学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が18p下がる結果となった。新たな通信アプリの導入等による混乱もあったことから、今後も積極的な情報発信に努めたい。
○「あいさつ」について、職員の肯定的評価は昨年より10p向上したが、保護者、児童との評価の差は大きい。今後も進んであいさつする児童の姿を価値づけ、継続した指導に努めたい。
○学校生活における「けやき台小が好き」「目標にむかって頑張る」「けやきの Ａ」「学校は楽しい」「勉強は楽しい」といった項目について、児童の肯定的評価の内“あてはまる”の評価が下がっている。また、「学校行事に一生懸命取り組む」の項目について、保護者の肯定的評価の内“あてはまる”の評価が下がっている。児童の思いや背景を丁寧に受け止め、保護者と共有する中で、適切な支援に繋げていきたい。

4 総合的な学校関係者評価

職員、保護者、児童の三者それぞれのアンケートについて、ほぼ全ての項目で肯定的評価(あてはまる・少しあてはまる)の値が目標値の80％を大きく超え大変良好であった。一方で児童の意見においてポイント数が下がっている結果を見逃すことはできない。近年、児童数の減少に伴い、アンケート結果において一人ひとりの回答が全体の割合に大きく影響するようになってきている。そのため、肯定的評価の割合(％)だけで判断すると、実態以上に数値が上下しやすくなる傾向がある。

したがって、今後の学校評価においては、平均値や割合のみならず、中央値に着目することが重要である。中央値を確認することで、極端な評価に左右されず、回答の“中心的な傾向”を適切に捉えることができる。これにより、児童数の変動による影響を最小限にし、より妥当で安定した評価分析が可能となると考える。

また、どの教育活動、地域活動においても、子どもたちの自己肯定感が上がるような声かけや取り組みを意識することや、達成感や自己有用感を得られるような価値づけをする工夫が必要である。

重点的な課題と示された「読書」については、学校司書や図書館ボランティア、家庭との連携を図り、取り組みを進めた結果、保護者のポイントが大幅に上がるなど、成果が見られたことは大きい。

引き続き、地域での子どもたちの安全安心についても、関係機関と連携・協力を図り、学校・家庭・地域が一体となって、児童の育成に努めてまいりたい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標 教育方針	教育目標及び教育方針、学校重点目標が、児童や地域、学校の実態や、教育課題に即応している。	・「けやき台小学校が好きだ」(児童)の肯定的評価は昨年より2p下がったが92％と高評価である。肯定的評価の内“あてはまる”の評価は7p下がっている。 ・「目標に向かって頑張っている」(児童)の肯定的評価は昨年より2p下がったが95％と高評価である。ただし、肯定的評価の内“あてはまる”の評価は10p下がっている。 ・学校運営協議会での熟議を踏まえ、保護者・地域と連携して教育活動を推進するとともに、学校行事や学級会など、各場面で児童を目標に立ち返らせ、意識付けながら取り組むことができた。	・児童の思いや背景を丁寧に受け止め、保護者と共有する中で、適切な支援に繋げていく。 ・学校・家庭・地域の連携を密にし、学校教育目標の達成に向け、クラスの実態や児童の様子を担任だけでなく学年、学校全体で共有する機会を大切にし、児童を中心に考えた教育活動を展開していく。 ・キャリア教育の観点から、学校、学年、クラスの目標を意識し、すべての教育活動において、児童に目標を意識させたり、振り返らせたりする機会を継続して設ける。	・子どもたちが「小学校が好きだ」「学校が楽しい」と感じられる場を作ることが大切である。
	めざす児童像、教師像、学校像の具現化に向け、本年度の学校重点目標を意識した指導ができている。	・「学校生活は楽しい」(児童)の肯定的評価は93％であり、昨年度と同様に高評価である。ただし、肯定的評価の内“あてはまる”の評価は7p下がっている。 ・今日的な課題に対応できるように「研究推進」「人権教育」「特別支援教育」「生徒指導」「情報教育」等、計画的に職員研修を持ち、資質・指導力の向上に努めることができた。 ・めざす児童像にある、「あいさつ」に関して、継続して取り組んでいくことが課題である。	・「自尊感情」を高める取り組みを一層すすめる。 ・児童の思いや背景を丁寧に受け止め、保護者と共有する中で、適切な支援に繋げていく。 ・特別活動を中心に、児童が主体的に楽しい学校づくりをできるように働きかける。 ・今後も職員が授業研究・教材開発の時間を確保する。児童が楽しく勉強することができる魅力ある授業づくりに一層努める。	・今後も子どもたちの意欲や達成感を大切にした教育活動を進めてほしい。
教育課程	教育課程の編成(週時程・日課表・行事等)は適切である。	・「年間計画の学校行事の内容及び時期」(職員)の肯定的評価は100％となった。一方で、「学校行事に一生懸命取り組む」(保護者)の肯定的評価の内“あてはまる”の評価が22p下がっている。 ・95％の児童は達成感を味わうことができたものの、昨年度より4p下がった。 ・運動会や自然学校、修学旅行といった大きな行事の時期が変更したことで、不安や負担が生じていたと推測できる。	・児童の成長や負担を考慮しながら、適切な時期に適切な規模で行事運営ができるように、今後も検討していく。 ・学校運営協議会をはじめ、学級集会や懇談会等様々な機会を通じて児童の成長や学校の取組について、保護者・地域に発信していく。 ・今後も1学期の時数や各学期初めの時数を減らすことで、ゆとりを持って学校生活を送ることができるように工夫する。	・昨年の行事等の改定を受けて、慣れないところもあるが、児童の成長や負担に対応しながら取り組みを定着させていきたい。 ・iPad が完備され、子どもたちの学習環境も様変わりする中、今の時代に応じた教育活動が進められるように、今後も計画していってほしい。
	各教科・領域における授業時数は適切に確保できている。	・「各教科領域における年間計画の内容及び時間は適正」(職員)についての肯定的評価の値は97％で高評価であった。 ・教育課程を適切に編成し、授業時数を確保したことで、計画的に学習を進めることができた。	・学習指導要領に準じて各教科の年間授業時数を確保し、学期ごとに進行状況を確認しながら、児童の理解度やスピードに合わせた授業を進める。	
学習指導	各教科の基礎的・基本的な内容を確実におさえ、評価の基準を定め、指導方	・「学校の勉強はわかる」(児童)の肯定的評価は92％で高評価である。 ・「評価基準に基づく、指導と評価の一体化を進めることができている」(職員)の肯定的評価は100％であ	・基礎基本の定着と、思考力や判断力、表現力、さらに主体的に取り組む力(粘り強く学習に取り組む力、学習調整力)を伸ばす授業改善に努める。 ・言語能力や情報活用能力など、様々な教科で培っ	・算数科の授業研究を中心に、先生方が共通理解しながら学校全体で取り組まれ

※ 行は、適宜加除願います。

	法を工夫して理解の徹底を図ることができている。	り、意図的・計画的な授業を行うことができており、児童にとってわかる授業に繋がっている。 ・学年毎に、授業研究と共に評価ポイント、評価方法などを話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価できた。	た力を他の教科でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。	ていることが、子どもたちの力に結びついている。「楽しい授業」「よくわかる授業」を今後も追求していってほしい。
	確かな学力を身に付けさせるように、自ら学習する意欲を高める、工夫ある授業づくりに努めている。	・「学校の勉強は楽しい」（児童）の肯定的評価が86%となり、昨年度より4p下がった。肯定的評価の内“あてはまる”の評価も11p下がっている。 ・「工夫ある授業づくり」（職員）の肯定的評価は97%であり昨年度から3p上がった。児童の意識との差が生じている。 ・「学習規律」（職員）の肯定的評価は89%、「家庭学習」の肯定的評価は児童が88%、保護者が85%とおおむね高評価だが、昨年度よりも下がっている。 ・毎週火曜日、学年の打ち合わせの時間を取り、学年で共通理解しながら、行事の運営や教材研究を進めることができた。	・児童の学びの状況を適切に踏まえながら、考えたくなる、熱中できるような授業を展開できるよう、校内や学年でさらに授業研究に取り組む。 ・すべての学習の基盤となる学習規律の徹底を図るため、具体的な手立てについて、学年で共通理解し、実践をすすめる。 ・朝学習や補充学習の時間を確保し、基礎基本の力を定着させるとともに、そのがんばりを評価し自信を育む。 ・個に応じた目標や内容を明確にすることで意欲的に家庭学習に取り組み、習慣化を図る。	・学校は、「学習の楽しさ」「学習する意味」を教えるところだと思う。決して「答えや正解を教える場」ではないので、そのような教育を今後も続けてほしい。
	個々の児童の到達段階の把握に努め、一人ひとりの基礎学力づくりに取り組んでいる。	・「個に応じて指導する」（保護者）の肯定的評価は98%となり、その内“あてはまる”の評価が30p上がった。 ・「あきらめず努力する」（保護者）の肯定的評価が95%となり、その内、“あてはまる”の評価が20p上がった。一方で、「あきらめず努力する」（児童）の肯定的評価は92%と高いものの、その内、“あてはまる”の評価が10p下がった。 ・児童が自身のがんばりを積極的に価値づけられていない状況がうかがえる。	・授業のふりかえりや単元のまとめをする中で、児童がわかったことや学んだことを表現し適切に評価する活動をより意識して行う。 ・「がんばりタイム」を継続して実施し、個に応じた指導体制と内容を整える。 ・児童の実態を次年度に引継ぎ、児童一人ひとりに有効な指導を継続する。 ・学習や行事のめあてや目標を明確にし、目標達成に向けた過程を意識づけることで、粘り強く取り組む力の育成を目指す。	・教育活動全体で、子どもたちが活躍する場面を増やし、今後も意欲や達成感を感じられるように取り組んでほしい。
	夢を持ち、挑戦する意欲を育てることができている。	・「児童が自分の役割を果たしながら、他者と協力・協働する力を養う指導を行っている」（職員）の肯定的評価は、100%であった。 ・各行事や特別活動を通して、自分の役割をやり遂げる力が育っている。 ・総合的な学習の時間や道徳科、キャリアノートなど各学年で計画的に、自分を見つめ振り返り、未来について考える時間を持つ事ができている。	・児童会や委員会活動、学級活動等において、児童が主体的で自主的に学校生活を楽しくするための企画ができるよう支援する。 ・今後も、各行事や特別活動を通して、めあてとふりかえりを大切にし、最後まで取り組む体験を大切にし、達成感を感じられるようにする。 ・一人ひとりが大切で必要な活動を行っていることを認め合い、「自己有用感」を感じさせていきたい。	
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づき、校長・教頭の指導のもと、全職員が連携し、問題行動や不登校、いじめ等の問題に組織的に取り組んでいる。	・「児童の問題行動について、学年等で情報を共有することができている」（職員）の肯定的評価は100%であった。一方で、「いじめや問題にあったとき、先生たちに相談しやすい」（保護者）の肯定的評価は90%であり、昨年度より4p下がった。 ・いじめ等の指導事案、不登校や児童の抱える問題等について、生活指導委員会、不登校対策委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。 ・職員会議等において、定期的に児童の情報を交流し、職員の共通理解を図ることができた。 ・ケース会議を実施し、SSW・SC・等とともに、児童に対してよりよい支援の仕方を検討している。	・児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保などを継続して行う。加えて、保護者との連携を密に図り、相談しやすい関係を築く中で、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進する。 ・今後も継続して、問題行動や対応事案等について、指導内容等を諸対応メモにまとめて、回覧し、関係職員、教員全体で共通理解を図る。 ・今後も、SSW・SCや関係機関との連携を深め、児童に対し多方面から支援の方法を検討していく。	・不登校の問題については、中学校や各関係機関と連携をとって対応していただきたい。 ・児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保などを継続して行うことが大切である。加えて、保護者との連携を密に図り、相談しやすい関係を築く中で、学校・家庭・地域が共に子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進してほしい。
	あいさつや清掃、その場に適した言葉遣いなどの基本的な生活習慣・マナーを確立するように指導ができている。	・「あいさつ」についての肯定的評価は、職員62%（昨年度52%）、保護者82%（昨年度84%）、児童89%（昨年度92%）となり、三者に意識の開きがある。 ・人間関係を豊かにするためにもあいさつは重要であり、登下校時のあいさつだけでなく、校内でもあいさつができる児童を目指し取り組んでいる。 ・全校朝会や学年集会、「愛ありがとう集会」を通して、「感謝」や「あいさつ」の意義を考える機会を持った。 ・「そうじ」についての肯定的評価は、職員が81%となり、昨年度より4p上がった。教師と児童との意識には依然としてずれがある。 ・美化委員会による、掃除を積極的にできるような取り組みを行うことができた。	・全職員が同じ熱量で指導を意識し、クラス学年に関わらず声をかけることで意識改革を促すなど、校内でもあいさつできるように取り組む。 ・今後も、あいさつ対して考える機会を設け、児童と共にあいさつの大切さ、目標を共通確認する。 ・児童会活動や学年において、児童が主体的に取り組むあいさつについての活動を構築する。 ・あいさつや言葉遣い、掃除など、できていることに対して肯定的評価を意識して増やしていく。 ・掃除をすることの価値を大切にし、掃除の仕方「けやきモデル」を踏まえて、懸命に掃除をしていることを積極的に評価するとともに、家庭においても家族の一員としての役割を担うことができるよう保護者とともに考えていく。	・保護者の立ち番も積極的に挨拶をしてくださっており、地域で子どもの安全とあいさつについて考えている。一方不審者対応のこともあり、悩ましいところもある。 ・「あいさつ」は、家庭が基本。学校だけでなく、家庭と地域も共に取り組んでいきたい。 ・子どもの安全安心が確保されるよう、関係機関と連携し取組を進めていくことが大切である。 ・近所との付き合いが希薄になる中、心を許せる人が身近にいることが大切。地域のつながりを考えていかねばならない。子どもたちは、気持ちを許せる人に対しては、しっかりとあいさつできている。
特別支援教育	特別な配慮や支援を要する児童の児童理解に努め、指導に活かしている。	・職員の肯定的評価は100%であった。 ・個別の指導計画や教育の支援計画についての研修を計画的に持つことで、適切に作成し、活用することができた。 ・児童理解研修や職員会議、職員打ち合わせの場で、児童の状態や情報を共有し、対応できた。	・継続して、児童理解研修会や特別支援に関わる研修を計画的に行っていく。 ・アセスメントや合理的配慮など、具体的な支援のあり方を学校全体で共有し、実践に活かす。	・子どもたちのことを丁寧に理解し、計画的に取組を進められており、今後も同様の体制を整備していってほしい。 ・十分な人員の確保についても強く望む。
	学校や関係機関、家庭との連携調整を図り、支援体制を充実させている。	・職員の肯定的評価は、100%であった。 ・校内委員会の設置、特別支援コーディネーターとの連携、職員研修の実施等、特別支援のための校内支援体制が整備され、適切な支援を行うことができた。 ・教師の空き時間を活用した支援体制を配備することができた。	・職員間で児童の状況を共有し、支援が必要な児童に適切な支援が行えるように、全職員が協力し、今後も継続して体制を整えていく。 ・誰でも相談しやすい環境作りを進めていく。	
保護者・地域住民との連携	PTA・地域ボランティアとの連携により、教育環境整備を行い、地域の核となる学校づくりを進めている。	・「ボランティア等地域の方々の協力」について、職員・保護者とも100%近い肯定的評価を得た。 ・「学校・学年通信やホームページ等でわかりやすく情報を発信している」（保護者）の肯定的評価は80%となり、昨年度より18p下がった。 ・HPを頻繁に更新し、校長室前の大型モニタに児童の活動の様子をスライドショーで流す等、本校の取組を常時発信することができた。一方で、新たな通信アプリの導入等による混乱もあった。 ・年間計画に基づき、ボランティアと連携して教育	・HP の定期的な更新、ボランティア通信等、情報発信を継続して行う。 ・学校支援ボランティアとの連携を深め、豊かな教育活動を実現するともに、ボランティアさんへの感謝の気持ちを教師から児童へ意識して伝えていく。 ・ボランティア交流会の実施を継続して行い、各担当と地域コーディネーターとの意見交流を行っていく。活動内容等、データを残し継続して取り組みやすい仕組みを作る。	・ボランティアには多くの方が参加してくださるが、高齢化が進んでいる。また、ボランティア登録をしている方に必要なボランティア要請の声が届いていないことがあるようなので、コーディネーターを活用し、希

※ 行は、適宜加除願います。

		活動を行うことができた。図工ボランティアが更に充実し、ボランティアの登録数も増えてきた。	・学期ごとのボランティア通信の発行を継続する。	望者をうまく回し、地域を挙げて関わっていけるようにしたい。 ・新たな通信アプリの導入により配布される手紙の軽重が分かりにくいなど、混乱を招く結果となったのではないかと推測する。
学力向上指導改善	「学びに向かう力を育てる」算数科の授業づくりを行い、「思考力の育成」に努めている。	・「子どもは、算数科の学習に対し、意欲的に取り組んでいる」（保護者）の肯定的評価は98％であり、昨年度より9p上がった。 ・「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」（児童）は肯定的評価が91％と高評価であるが、昨年度より4p下がっている。 ・「対話」を重視し思考力を深める授業展開について、これまでも研究を積み重ねており、主体的に取り組む児童の姿につながっている。 ・ノートコンテストなど、算数に関する環境整備をより進めることで、児童のみならず保護者への啓発にもつながった。	・考えることの楽しさを味わえるような授業展開をより一層工夫していく。 ・普段の授業の質を上げていくことができるよう、実践や教材を保存し、共有しやすい環境を作る。 ・本校の研究についての取り組み、児童の様子をより一層保護者に発信していく。 ・「算数科」の研究を踏まえて、それぞれの授業の中で問題を解く過程を説明していく対話的活動を取り入れながら、思考力を育成する授業に取り組んでいく。	・学力だけでなく体力や主体性など、総合的に子どもたちを伸ばすよう今後も取り組んでほしい。 ・コミュニティーセンターで行われるスポーツ系活動も活用できると考える。
	すこやかな体づくりをめざした取り組みを行えている。	・「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」（児童）の肯定的評価は94％であり良好である。 ・けやきっこ縄跳びカードの配布や体育委員会企画の大縄大会等を通して、休み時間には、多くの児童が外で大縄やなわとび練習に取り組むことができた。	・なわとびや鉄棒カードを作成し、休み時間や放課後にも、目標をもって意識的に運動に取り組めるよう計画する。 ・体育委員会が中心となって、積極的に運動に取り組める活動を企画していく。 ・保護者に対して、学年で取り組んでいる体育の内容や運動について知らせていく。	
	自主的により良い学校づくりに取り組もうとする児童を育てることができている。	・三者評価とも肯定的評価が95％以上と良好だった。 ・一年生を迎える会、けやギネス、運動会、6年生を送る会、感謝の集い等、継続して児童会主催で行うことができた。また、各委員会の取り組みも活発に行うことができた。 ・子どもたちの自治的、自主的な力の育成を目指し、全学年で学級会活動や係・当番活動に取り組むことができた。	・「より良い学校、より楽しい学校」にするために、児童が自由にアイデアを出し合い主体的に進められるよう、児童会活動、委員会活動、学級会等を支援していく。 ・今後も、児童が自主的に取り組める活動の可能性を考え、年度初めに年間予定を明確に立てておく。	・児童が自ら新しいアイデアを出し合いながら主体的に進められるような活動に期待している。
	読書好きの児童を育てることができている。	・「読書活動」に関して、職員の肯定的評価は92％、保護者の肯定的評価は98％、児童の肯定的評価は80％と前年度よりも向上している。特に保護者の肯定的評価は36p上がった。 ・図書ボランティアによる本の貸し出し、読み聞かせ等により、来室する児童や図書の貸し出し数が増えている。 ・学期ごとに読書ウィークを設定して朝読書を行い、2学期は期間を長くするなど、これまでの継続・発展させてきた取組が効果を発揮している。 ・1～4年生は図書の時間を設定し、継続して図書の貸し出しを行った。	・今後も職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。 ・学校と家庭とが連携し、毎月23日の「家族読書の日」の取組や読書ウィークの取組を通して家庭でも本を読む時間を確保していく。 ・どの学年も、週に一度は図書室に来室するように声かけをする。（本に出合う機会づくり） ・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。 ・学校司書、図書ボランティア、図書委員会と協力して、読書環境を発展させていく。	・図書ボランティアの活躍で保護者アンケートが飛躍的に伸びているのが分かる。図書室前の掲示の工夫や読み聞かせも行われた実績が実を結んだ。これからも、学校、家庭、地域が連携して本好きの子どもを育てていきたい。
人権教育	一人ひとりが大切にされる集団の中で、つながりを深め、自尊感情を育み、確かな学力と差別を許さない人権意識を育てている。	・「学校は一人ひとりの人権を大切にし、いじめのない集団作りをすすめている」（保護者）の肯定的評価は97％であり、大変良好である。 ・生活指導でのいじめ防止のためのこまめなアンケート実施と、気になる事象の解決に向けた組織的な取り組みを行うことができた。 ・人権教育について、計画的に職員研修を持つ事ができた。 ・ハートフル参観、学級集会を通じて啓発を行ってきたが、学級集会の参加者が少ないことは、今年度も課題である。	・ハートフル参観での学級集会を、人権について保護者と共に考える機会ととらえ、今後も継続し大切に実施していくとともに、人権教育のねらいや内容について情報発信に努める。 ・生活アンケートをもとに、いじめの早期発見・早期対応に継続して努める。 ・肯定的評価の言葉がけを意識し、児童に「自己有用感」を感じさせることに努めたい。 ・人権教育や不登校対応等、講師を招聘するなどして、今後も計画的に職員研修を行う。	・ハートフル参観、学級集会を持つ事ができたが、学級集会の参加者が少ないことは、課題である。 ・人権教育については、一人ひとりが大切にされる地域や社会の実現のためにも、積極的に取り組んでほしい。保護者・地域もともに学んでいきたい。
保健・安全管理	校内では施設点検を定期的に実施し、校外では保護者・地域と連携して、児童の安全を守る取り組みができている。	・項目にある保護者の肯定的評価はいずれも94％以上であり、大変良好である。 ・「危機管理に関して、実践的な研修・訓練を十分に行っている」（職員）の肯定的評価は92％であり、昨年度より8p下がった。 ・毎月の安全点検に加え、日常でも危険に気づいたとき、その都度改善できている。	・研修や訓練のふりかえりをもとに、その都度改善を行うとともに、定期的に安全点検、避難訓練を行い、危険予測、回避能力を養っていく。 ・保健室と担任の連携を密に行い、保護者への連絡を大切にする。 ・警察との連携や危機対応マニュアルの見直しを進め、今日的な危機への対応力を高める。	・1．17集会では、防災ボランティアさんの講話を聴くことができた。4年生の総合の取り組みでiPadを活用した異学年交流が行われた。2年生、3年生と共に防災について体験活動ができて良かった。

※ 行は、適宜加除願います。